

3-2 課題の整理

3-2-1 五条川に関する現状整理

五条川の整備の課題を整理するため、これまで調査した五条川に関わる上位・関連計画での位置づけ、五条川の現状、市民等の活動状況と意向調査結果及び現行計画の進捗状況について、以下に整理する。

■上位・関連計画における五条川の位置づけ

- 五条川の自然環境の保全と市民が親しみやすい水辺環境の整備
- 五条川桜並木の保全・再生
- 五条川を中心とした水と緑のネットワーク、ビオトープネットワークの形成
- 水辺の生物多様性の保全
- 五条川沿川の景観形成
- 五条川の散策環境の整備・充実
- 五条川堤防道路等を活用した歩行者・自転車ネットワーク軸の整備
- 水害防止に向けた総合的な治水対策の推進
- 環境ボランティア・市民活動団体の育成・支援
- 市民団体などとの連携による水辺環境教育の充実

■五条川の現状

- 護岸・堤防道路
 - ・水際はブロックなどの人工護岸が大半である。巾下川合流点より下流は、有堤区間で堤防法面に草木が繁茂し、比較的自然的趣きがある。
 - ・市街地では、水際に近づける護岸の整備が進んでいる。
 - ・名鉄犬山線橋梁部は橋脚による河川断面が狭められている。
 - ・堤防道路が尾北自然歩道となっている。一方通行などにより自動車通行が抑制され、ジョギング、ウォーキングなど広く市民に利用されている。
 - ・一部で堤防道路がない、または、未舗装の区間がある。
 - ・竹林公園北側の護岸が沈下しており、愛知県が河川改修に着手予定である。
- 水質・流量
 - ・五条川の水質は、横ばいから緩やかな改善傾向にある。
 - ・五条川の流量は、冬季に減少する。
- 桜並木
 - ・五条川沿岸の桜並木が「日本のさくら名所100選」に選定されている。
 - ・桜は寿命が近づいてきており、老木化が進んでいる。
- 動植物
 - ・魚類などの生物は、全体的に単一化しており、外来種が増加傾向にある。
- イベント・レクリエーション
 - ・4月上旬に「桜まつり」が開催され、市内外から大勢の花見客が訪れる。
 - ・市民団体との連携により、水辺まつりなどの親水イベントが開催されている。

○沿川地域

- ・沿川地域の市街地は主に住居系の土地利用が図られている。
- ・沿川には都市公園、児童遊園、八剣憩いの広場、お祭り広場、尾北自然歩道の休憩所などが整備され、市民の憩いやスポーツ・レクリエーション活動に利用されている。
- ・五条川の左岸地域の用排水は矢戸川に流下、右岸地域の用排水路の多くは待合橋下流に流下している。また、五条川右岸地域の五条川と名鉄犬山線に挟まれた地域の市街化区域の大半は下水道未整備である。
- ・名鉄岩倉駅から五条川までは約 350m の距離にある。
- ・南部中学校、五条川小学校、曾野小学校の 3 校が五条川沿いに立地する。
- ・鯉のぼりの糊落とし「のんぼり洗い」が五条川の風物詩として親しまれており、沿川には岩倉街道、山内一豊生誕地碑、岩倉城跡などの歴史文化資源が分布する。
- ・沿川地域に内水氾濫の浸水想定区域が分布する。

■市民等の活動状況と意向調査結果

- 市民団体、アダプトプログラム登録団体により、イベント、桜並木の保全・管理、緑化などの活動が実施されている。これらの活動区域は、ほぼ市街地に限られる。
- 市民意向調査によると、五条川などの自然環境の保全・活用に対する満足度は非常に高く、市民のよく利用する、気に入っている水辺や緑の空間についても、五条川の回答が圧倒的に多い。また、五条川の今後の整備については、生物が生息する自然環境を残した川、子どもたちが自然を観察できる場の意向が多い。
- 市民団体ヒアリングにおける五条川に対する主な意見は以下の通りである。
 - ・生物の生息できる自然環境の保全・創出（水量の安定的確保）
 - ・桜並木の保全・維持管理
 - ・魚釣り、ウォーキングなどのレクリエーションやイベント利用の促進
 - ・公園や堤防道路などの周辺施設の利活用・維持管理
 - ・市民・利用者による清掃活動の促進、マナーの向上
 - ・五条川の魅力向上や桜の保全に対する機運の向上
 - ・商工会などの他の市民団体の協力、情報交換
 - ・五条川に生息する生物の説明などの情報発信
 - ・市民などの憩いや集いの場となる休憩場所の整備
 - ・五条川、桜並木、水辺の自然環境に関する子どもなどへの教育
- 市民活動団体は、高齢者が多いこともあり、活動を活性化するにあたって、新たな人材の育成が必要となっている。

■現行計画の進捗状況

- 第 1 次計画では、治水・利水及び親水機能の向上、第 2 次計画では、これに、自然環境の保全・創出の視点を付加し、整備を進めてきた。
- 第 2 次計画策定以降、モデル地区においては竹林公園が整備され、名神高速道路下、八剣憩いの広場、お祭り広場で一部整備が進み、機能強化が図られてきた。その他の下流域などのモデル地区については、財政的な課題等もあり、整備が未着手である。

3-2-2 五条川に関する主な課題の整理

五条川に関する現状整理を踏まえ、主な課題を以下に整理する。

■桜並木の保全・再生

「日本のさくら名所 100 選」に選定されている五条川の桜並木は、春の開花時期には大勢の花見客が訪れるとともに、広く市民からも親しまれている市民共有の貴重な財産であり、本市のシンボルといえる。

しかし、五条川沿岸の桜は、古くは昭和 25 年頃から植樹されたソメイヨシノであり、初期に植えられたものは、一般に言われる寿命（60 年）に到達している。このため、桜の樹木には老木化が目立ちはじめており、桜並木の景観が損なわれるとともに倒木や枯れ枝の落下などの危険も生じている。本市の宝とも言える五条川の桜並木を後世に引き継いでいくためにも、桜の保全・再生対策を計画的に推進する必要がある。

■自然環境及び生物多様性の保全・再生

五条川における魚類などの動植物の生息調査によると、種の単一化や外来種の増加が徐々に進んでいるとの報告があり、生物の多様性が喪失傾向にある。生物多様性の確保に対する社会的ニーズや市民ニーズに応えるため、こうした外来種の増加を抑制するとともに、生物が棲みやすい護岸や河床などの形態に配慮し、多様な生物が生息できる五条川の水辺環境を保全・創出し、エコアップ[※]を図る必要がある。

また、五条川の水質は、下水道の整備などにより改善が図られてきているものの、季節によっては、水量の減少などから水質が悪化している状況にある。これらは、五条川沿川地域のみならず、市全域や広域的な市町村との連携も踏まえつつ改善を図る必要がある。

■堤防の散策や水辺のレクリエーションの充実

五条川の水辺や堤防などにおいては、親水護岸、尾北自然歩道、休憩施設、公園緑地などの整備が順次進められてきており、イベント、日常的なジョギングやウォーキングなどにおいて、広く市民に利用されている。

第 2 次計画でレクリエーションなどの施設整備の計画を策定したモデル地区においては、竹林や親水護岸のある竹林公園などが実現に至っている。

今後も、市民にとって五条川の水辺により一層親しみを感じられるよう、親水性のある空間や水辺レクリエーションの機会の創出を図る必要がある。また、一方で、既存の尾北自然歩道などの堤防道路の施設の整備や維持管理により、歩行者や自転車ネットワーク軸の強化や安全・安心かつ快適な散策路としての整備を進める必要がある。

※ 生物の生息環境に配慮した環境の改善、生き物の生息環境を人の手によって復元すること。

■沿川地域の景観形成

五条川沿いの桜並木や水辺のある景観は、市民にとって親しみ深いおい豊かな原風景であるとともに、五条川は、市街地中心部から比較的近く、桜まつりをはじめとした様々なイベントが開催される本市の顔となる地域である。

このため、桜並木の保全や生物多様性に配慮した自然環境の保全・再生により、より一層質の高いうるおい豊かな景観形成を図るとともに、沿川地域の街並みを含め、地域と一体感のある景観形成を進める必要がある。

■風水害に対する安全性の向上

五条川沿川の一部では、内水氾濫が想定される地域が分布している。また、東町などの五条川堤防では、水害に備え、地域住民の発案により、防災ベンチを設置しており、大雨時には一定の効果を発揮している。

今後は、こうした身近な防災対策を進めることに合わせて、河川管理者などと連携を図りながら、河川改修や総合的な治水対策を進める必要がある。

■五条川に関わる市民の活動の拡大

水辺まつりやクリーンアップ五条川などの五条川に関わるイベント、小学校教育による生物調査など、五条川に関わる市民参加の活動は市民団体との連携により運営されている。また、清掃や除草などの日常的な管理を実施するアダプトプログラム制度についても、制度設立以来、徐々にその登録団体数を増やしてきている。

しかし、五条川が市民にとって愛着や誇りを持てる存在で、本市のシンボルであることから考えると、まだ自主的に活動や活動への協力を行っている市民は限定的であり、今後、より一層の市民の意識の向上が期待される。このため、市民などの機運の醸成を図り、五条川の魅力を高める活動やイベントへの参加者を増やしていく必要がある。

また、市民活動の核である既存の活動団体などについては、他の団体などとの連携の強化を図りながら、活動の拡大を図ることが期待される。

■五条川の将来を担う人材の育成

現在の市民活動団体は、活動日時の条件などもあって高齢者の割合が高くなっており、今後の市民活動を活性化するためには、新たな人材や市民団体を育成していく必要がある。

小学校において五条川の生物調査などを実施しているが、こうした五条川に関わる環境教育を充実するほか、観光や文化など多方面からも将来にわたって五条川の整備や保全の活動に関わることのできる市民を育成していく必要がある。